浸水被害を受けほ場に残されたイネを処理する方法と注意点

令和８年 10 月８日
つくば地域農業改良普及センター

・現在の状況に応じて、該当する項目をご確認ください。

まだ、ほ場に残ったイネを処理していない
→　まず[1]　共済の確認（加入状況、現地確認等）
→　共済の確認後、ほ場で作業ができるようになったら[2]　ほ場内に残ったイネを処理する方法

イネの細断・すき込みが終わったら　→　[3]　すき込んだイネ・籾の分解を促進

R9 年産水稲に向けた準備をするときは
→　[4]　施肥について
→　[5]　漏生イネについて
→　[6]　コンタミ（異品種混入）を防ぐ
→　[7]　病害虫の発生に注意する

R9 年産水稲の田植え後にガスが発生したら　→　[8]　田植え後にガスが発生した場合

[1]　共済の確認（加入状況、現地確認等）

・共済に加入している場合、共済組合に連絡し確認作業等を受ける必要があるか確認する。
（※確認を受ける前に作業してしまうと対象にならない可能性があるので必ず行う）

[2]　ほ場内に残ったイネを処理する方法

・ほ場内に機械を入れる前に、ほ場に流れ込んだゴミなどはできるだけ取り除く。
・稲わらをすき込める状態にするために、ハンマーナイフモアなどによりイネを細断する。可能ならコンバインによりワラを細断し、籾をほ場外に持ち出しても良い。
・細断したイネは、ほ場全面に均等に広げたのち、ロータリー等で土とよく混ぜ合わせ、その後も１～２回程度混ぜ合わせる。
・イネの分解には，適度な温度が必要なので、１１月末頃までにはすき込み作業を行う。

[3]　すき込んだイネ・籾の分解を促進

・分解を促進するために、２～３週間ごとに、耕うんする。耕うんは、５～１０cm の浅耕とする。

4　施肥について

・水稲の生育を調整できる【基肥＋追肥体系】を基本とする。すき込んだ籾からの肥料分（窒素）が発現するため、水稲の生育に応じて施肥を行えるようにする。【基肥一発肥料】を使う場合は、減肥する。

（参考）籾を持ち出せずそのまますき込んだ場合、10 アール当たりの標準的な籾米収量６３０kg には，約５kg の窒素成分が含まれており，そのうち肥料として効いてくるのは 2.5～３kg とされている。またこの窒素成分は生育後半に効いてくるため、基肥には速効性窒素肥料を利用した方が調整しやすくなる。

5　漏生イネについて

・すき込んだ籾が出芽（漏生イネ）することがあるため、可能なら以下の対策を行う。
・代かきを２回行う。
（可能であれば間隔を７日空ける。少なくとも４日空ける。）
・田植えを平年よりも遅くする。
（出芽する漏生イネを増やし、代かきで処理するため。）
・漏生イネに効果の高い除草剤を使用する（体系処理）。
除草剤については植調協会が公表している「雑草イネ・漏性イネ有効剤として実用化可能と判定された水稲用除草剤」を参考にする。

（公財）日本植物調節剤研究協会
「雑草イネ・漏性イネ有効剤として実用化可能と判定された水稲用除草剤」
※掲載内容は更新される場合があります。

6　コンタミ（異品種混入）を防ぐ

・自家採種は行わず、必ず種子更新を行う。
・前作およびすき込んだイネと同じ品種を作付する。
・畦や株の間に漏生イネを確認した場合は機械除草などをする。

7　病害虫の発生に注意する

・例年、いもち病・ばか苗病・紋枯病・イネシンガレセンチュウなどが発生するほ場では、これらの発生に注意し必要に応じて防除する。

8　田植え後にガスが発生した場合

・田植え後ガスが発生する（足を入れるとブクブクと泡が出る）場合は、いったん水を落としガスを抜く（乾かしすぎないように注意）。その後は浅水管理し、こまめに水を入れ替える（間断かんがい）。

（参考）土が露出すると雑草の発生が多くなることがあります。雑草の発生状況によっては追加で除草剤を使用することを検討する。